

筑波のかえる 第40号



脳損傷友の会・いばらき
2018年 9月15日発行



おとつこん おかあさん
これからもおしごと
がんばってま あたしも
がんばりよ 存なみお

脳損傷友の会・いばらき

〒300-2622

茨城県つくば市要1187-299

筑波記念病院リハビリテーション部内

TEL 080-8430-3365

FAX 029-877-4688

E-mail kojinouibaraki@yahoo.co.jp

H.P <http://www.geocities.jp/nousonshouibaraki/index.html>

《40号内容一覧》

はじめに（細川副会長）	1
役員会から	2
平成30年度第1回リハビリ講習会	3
大人とこどもの高次脳機能障がいを考える会	4
茨城県立医療大学附属病院訪問・他	5
藤井ケイイチさん復活ライブ	6
神栖の広場	7
県南の広場「ランチ会」	8
県北の広場	10
頑張ってる人⑤	12
事業所訪問②「かさま障がい者サポートセンター」	13
事業所訪問③「機能訓練センター フリュージェル」	14
お知らせ・他	15

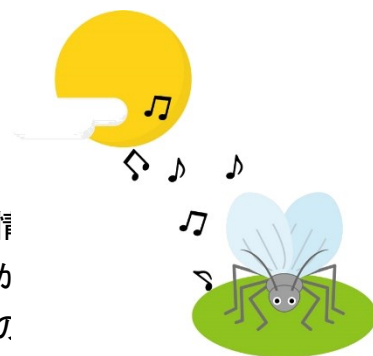


表紙の写真は笹原七実さんがつくば特別支援学校の卒業記念品として作った「ハーバリウム」です。

両親への感謝の思いを込めたプレゼントです。中に『ありがとう』という文字が見えます。

はじめに

最近気候変動による災害が日本を襲っています。障がい者の人また関係者の人はどう対応したのか気になるところです。マスコミ、インターネット、から伝わってくる情報の一部でしかない。現地に行って体感するか、生の声を聴かるとには本当の実情はわからないと思います。私たちも災害への前に考えておく必要があると思います。



私の息子が働く部署がない、仕事がない、同じミスをする、覚えられない等の理由で長年契約社員として勤めていた会社を解雇になってしまいました。法改正が大きく影響し、正社員にしたくないのが本音だと思います。解雇の原因にある高次脳機能障害について知識を得ようと、脳損傷家族会の総会、講演会に顔出ししてみた。すると、途端に会計監査の役目を依頼され、あれよあれよとついに今年役員を引き受ける羽目になった。役員になったとたん1か月半入院することになり、今自宅療養中である。今年1年間は満足に務めを果たすことは出来そうもなく心苦しいです。

体調もよかったので茨城県高次脳機能障害支援センター長との懇談会に出席しました。センター長の話では「今は私（センター長）も含めてスタッフ一同は待遇など顧みず熱意とやる気で満ち満ちている。HPに掲載しているようにプランは出来ていません、関係書類も揃えています。今は実行の段階であり、病院、施設、他県、相談者のところに向かっています。まずは、今のこのセンターの良い状況を維持したいとの思いが強いです。他県の進んでいるところに実際にいってみると実情はかなり違って同じような悩みを抱え順風満帆とはいっていないようである。やはり、直に現場にいったり体感するか、生の声を聴くことが大切である。現場主義で推進していきたい。」と語っていた。

脳損傷家族会としては要望書を県知事あてにと考えていたが、新知事なのでまだ各部署の実情をよく把握できていないのではと推測されます。今回は前回と同様に福祉課あてに提出し、知事に伝えていただくことにしました。

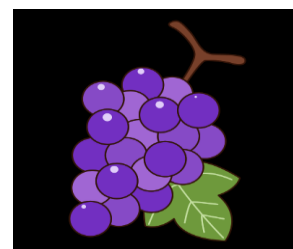
脳損傷家族会会員の各行事、総会への参加が少ない、会員数も増えない、果たして今の活動のやりかたでいいのか、役員だけが空回りしているのではと、やる気が消えそうになった時もあった。脳損傷家族会は必要である、存続させ、繋いで行こうと意識を新たにしました。

脳損傷家族会も新会長のもとに今年度の活動が始まったばかりです。茨城県高次脳機能障害支援センターもできたばかりです。今がチャンスです。会員の皆さんどんなことでもいいです、意見をどしどし教えてください。センターに、県に要望していきましょう。それに行事にも時間の許す限り、顔をだしてください。そのことが、役員の熱意とやる気のもとです。よろしくお祈りします。

副会長 細川

役員会から

平成30年度 脳損傷友の会・いばらき 事業予定



項目	会 員	役 員 会	そ の 他
9月	14日 家族会交流室 20日 県北家族の集い 26日 神栖集会 28日 要望書提出・福祉 部長訪問		2日 リハビリ講習会 8日 牛久障害者連合会 会合に参加 15日 会報誌発行 28日 ホットカフェにて 講話 29日 支援センター研修会
10月	7日 県北集会 12日 家族会交流室 24日 神栖集会	17日 役員会	20日 交通事故被害者 ネットワーク講演会
11月	9日 家族会交流室 15日 県北集会 28日 神栖集会		
12月	14日 家族会交流室 26日 神栖集会	役員会（未定）	2日 リハビリ講習会 15日 会報紙発行

役員会報告

平成30年8月1日 議事 (1) 要望書提出について
(2) 障害福祉課関部長訪問について
(3) 作業療法士会のランチ会について

家族会交流室からの報告

平成30年 7月13日 相談者5組、
若年性認知症支援コーディネーター 中野明子氏
支援センター 寺門氏

平成30年 8月10日 相談者7組
支援センター 山中氏



平成30年度第1回リハビリ講習会

於：9月2日（日）茨城県立医療大学112講義室

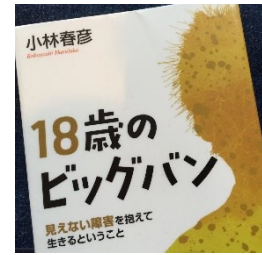
★「第一部「障害という仮面の表と裏」

○「18歳のビッグバン」

～ 見えない障害を抱えていきること～

著者 小林春彦氏

18歳の時に脳梗塞で倒れ、身体と脳に障害を負った。
東京大学主催「DO-IT JAPAN」プロジェクトの第一期生に日本全国から選抜され、東京大学先端科学技術センターに従事。執筆活動と講演活動をして都内でルームシェアして自立した生活を送っている。31歳、独身。



★「第二部 「当事者に居場所、介護者に支え」

○「日々コウジ中」「続・日々コウジ中」

著者・イラストレーター柴本礼氏

夫コウジさんが49歳の時にくも膜下出血で倒れる。高次脳機能障害の夫は障害者雇用制度での就労12年目、自身はうつになったりしながらも、高次脳機能障害の夫を支えながら、世の中の人に高次脳機能障害を理解してもらうために本を書いたり、講演したり、ブログでつながるコウジ村の代表もつとめるなど、精力的に活動している。夫と大学生の娘と、犬と猫と生活。



◎ 講演を聞いて

小林さんは、あった瞬間に息子の頭の傷を思い出してしまった事と（小林さんは流行の髪型だと言っていました。）、講演前にお話ししたら、息子たちと同年代でとても親近感がわきました。講演の内容はちょっと難しくお話しされていたが、共感できるところが十分あり、まだまだ成長するであろう小林さんにはとても期待しています。

柴本さんとは、息子が高次脳と診断される前から、ブログで知り合い、何度かコウジ村でお会いしていました。息子は頭の怪我以来、宇宙人のようになってしまって、壊れかけていた私に「県リハへの相談や家族会への参加」などを勧めてくれたのは、柴本さんの本やブログです。そのような縁で「続・日々コウジ中」のJ君は私の末っ子の息子です。

当事者の小林さんからは、白杖をもってカミングアウトして外へ出たら、今までより生きやすくなったこと。家族の柴本さんからは、「介護者の孤立と疲労が大きな問題で、障害者の改善には、まず介護する者が元気になること」が心に残りました。柴本さんは講習会の資料もイラスト入りで分かりやすくまとめてありますので、必要な方は家族会に問い合わせてください。

この講習会は日本損害保険協会助成事業で開催されています。今後も、高次脳機能障害者や家族や医療従事者に有用な情報が発信されるような講習会が開催されることを望んでいます。実行委員会の皆様お疲れさまでした。（小野瀬）

大人とこどもの高次脳機能障がいを考える会

6月14日、筑波大学付属病院会議室にて午後7時より開催されました。今回は、高次脳機能障がいに似た症状のアスペルガー症候群の方の事例です。現在は外出の機会も減り、今後の生活をどのように考えて行けば良いのか参加者の皆さんに検討していただきました。

ご本人が使用するかどうかはともかく、障害者福祉サービスの申請だけでもしたほうが良いのではないかと。医師との信頼関係ができているのであれば、そこを切り口にして、精神科のデイケアなどのサービスにつなげてはどうか。精神の訪問看護などを利用してはどうかなど話しました。参加者は24名で、PT、OT、相談支援員、事業所職員、特別支援学校教諭、高次脳支援センターコーディネーターなどの皆さんでした。

常総保健所での体験発表

7月13日、常総保健所で、医療関係者、ケアマネ、行政の担当者などの方々の前で、体験談の話をさせて頂く機会がありました。当事者の夫と私が、コーディネーターの浅野さんと対話形式でスライドなどを使い、発症から現在までの流れと、その時々で感じた事などを話しました。



私が一番に伝えたい事は、発症後どのタイミングで何をしたらよいか？の指針がなくとても困った事です。ネットの発達した今、私はどちらかと言うと情報を持ちすぎ、あれもこれも心配で、発症後二年ですれば良かった申請などを、二か月目くらいから手を付けていました。専門機関などがあり、今すべき事！を明確に教えてくれていたら、あの何から手を付けていいかわからないと思い悩む事もなかったかと思えます。

夫が倒れると、まず夫の身体の心配、家計の事、職場との調整、そして手帳の申請に始まり、諸々の申請。やるべき事が山ほどあったし、病院選びの情報も少なく、一時はどこでも診てもらえない状況にもなりました。

体験談の発表後のアンケートを見せて頂くと、ケースワーカーの提示した情報が、私がネットで得た情報と何も変わらなかった事に驚いたとか、奥さんが右往左往した様子がよく分かった等の意見があり、少しは当事者家族の負担が伝わったかな？と思えます。

夫も、仕事で常総市と関わった時の事を、生き活きと話していました。きっとどこが障害？って思われたかも？それでも、仕事にも付けない、一人の外出も難しい現実に見えない障害の高次脳機能障がいを感じて頂けたらいいな～と思えます。

とても緊張しましたが、発信する機会を頂けた事に感謝しています。

村山 正子

茨城県立医療大学付属病院訪問

7月6日に役員4名で県立医療大学付属病院長の岩崎信明先生、そして県立医療大学事務局長の高橋光義氏、事務次長にお会いしてきました。県内での高次脳機能障害者数は1万人と推定されることや当会の活動内容、現在抱えている問題等についてお話しをしてきました。診療科
河野豊先生も参加してくださり、医師のお立場から様々な高次脳機能障害のご説明をしてくださいました。病院では多くの高次脳機能障害の方が入院されていること、医師の間でも高次脳機能障害のことをよく知らない医師がいるとおっしゃっていました。機会ある時に医師会の講演などで説明をしてくださっているそうです。医療関係機関にも、もっと高次脳機能障害の支援が広がることを願います。



茨城県高次脳機能障害支援ネットワーク協議会

8月31日、県立医療大学において、昨年度までのシステム整備協議会を変え、新たにネットワーク協議会として開催されました。高次脳機能障害の課題の整理や施策の検討、関係機関の連絡強化など支援策を総合的に図っていきます。

第一回は、今年度の事業計画進捗状況、相談支援、普及啓発についての報告があり、高次脳機能障害支援協力病院モデル事業についての報告もありました。県内2病院（志村大宮病院、筑波記念病院）が委託を受け、病院内に支援コーディネーターを配置し、相談支援事業退院後のフォローアップ事業、研修等開催事業等が実施されます。今後の茨城県の地域における医療機関を含む関係機関との連携拠点となり、支援ネットワークの構築を行っていくそうです。

牛久市障害者連合会の会合に参加しました

9月8日牛久市ボランティアセンターにて、当会の会員も連合会の会員ということでお招きを受け高次脳機能障害についてのお話をさせていただきました。牛久市障害者連合会は肢体、視覚、知的障がい、内部障がい、精神障がいなど、様々な障がい児者本人と、その家族からなる家族会団体が会員となり、地域で生きていくために必要な環境づくり、現在から将来に向けて必要なことなどを一緒に考えていこうという連合会です。事務局が市の社会福祉課内あり、牛久市の福祉に対する取り組みが伺えました。身近な障がいとして、高次脳機能障害を捉えて頂けたように思います。



藤井ケイチコンサート

7月1日に大勢の友人や家族会の仲間たち、病院の先生、県リハの職員の方などが集まってくださった復活コンサート。一年前に宣言していた事を堂々とやり遂げた藤井君に拍手を送りたい。



彼との初対面はちょうど一年前、お母さんと最強の協力者である飛田さんという女性の3人で筑波記念病院で行われている家族会交流室に来てくれた時です。色々と話を聞いているうちに、彼の夢は「事故に会う前に計画していたライブコンサートをやりたい」とのことでした。

自作の曲も忘れてしまい、何百回も聴いて覚えたこと。仲間たちがギターを持って病室にきてギターの弾き方を思い出させてくれたこと。人との関わり方もぎこちなくなってしまう彼が一年後にその夢を現実に叶えました。

家族会の総会のアトラクションで彼の話とミニコンサートをしてもらいました。話も実に分かりやすかったが、特に若い世代の当事者は共感出来るところがあったのでしょう。コンサートに持参したCDは完売、一緒に記念撮影など、いつもの総会とは違った音楽を通しての繋がりのような余韻の残る総会となりました。彼の口から出る言葉は、「家族や仲間に来て貰って感謝している。」と。その素直な気持ちが回復の力になっているのだと思います。

まだまだ復活途中の彼には、今後の音楽活動はもちろん家族会においても内に外に高次脳機能障害をアピールしてもらえたらと希望しています。 (小野瀬)

復活ライブを終えて

念願の復活ライブを終えた藤井さんに感想をお聞きしました。

『皆様のおかげで、とてもよいライブになりました。
ありがとうございます。準備がとても大変でしたが、自分の目標に近づけるために一生懸命やりました。応援、ありがとうございました。』
【生きていることに感謝を込めて・藤井ケイチ】



神栖の広場

神栖市社協では、毎月「地域ネットワーク勉強会」が開かれています。

7月は、『高次脳機能障害』がテーマで、「障害の特性と支援センターの取り組み」について、山中支援コーディネーターを講師に迎えて行われました。

家族会設立当初の講習会は、「脳のメカニズム」等、医療従事者の疑問に答える専門的な内容が主で、家族が望んでいる対策法は得られないで落胆して帰ることが多くありました。

でも、近年の勉強会は、「原因・症状・対応など」、「利用できる制度の案内」「支援センターの役割」「家族会への参加」等、現状に沿った役に立つ内容の勉強会に変わってきました。

今回、山中支援コーディネーターが持参した資料は、わかりやすく、支援事業所の課題も見つかったのではないかと思います。家族も、孤立しない道筋が出来てきたので、分かりづらい障害ですが周囲の理解を深めて安定した生活ができるよう、発信していくことが大切と思います。

神栖にも多くの事業所があるので、次回はより多くの福祉関係者の参加があれば心強く思います。



神栖集会からの報告

- | | |
|----------|---|
| 6月27日(水) | 支援センター：山中コーディネーター
友の会：滝沢会長
鹿島市議：2名
会員：6名 |
| 7月25日(水) | 支援センター：清水コーディネーター
会員：6名 |
| 8月22日(水) | 支援センター：寺門コーディネーター
会員：6名
相談者：1名 |



平成30年度 ユーザー支援事業①
ランチ調理会（平成30年8月26日）

茨城県作業療法士会 土浦医療圏担当

茨城県作業療法士会 土浦医療圏です。今年度もランチ調理会を実施させて頂きましたので報告をさせていただきます。

場所：土浦社会福祉会館 調理室

内容：ランチ調理会（カレーライス、サラダ、デザート作り）

参加者：22名（当事者7名、家族7名、支援者：8名）

毎年恒例ですが買い出しからスタートします。スーパーで計算しながら買い物をし、いざ調理となります。今年度はメインがカレーライスということもあり包丁を使った作業が増え、また火を使うことも作業として取り入れました。みなさん、たまねぎを切る時は、涙が出てしまい大変そうでした。調理中は、支援者ともコミュニケーションを取りながら楽しく調理をすることができたと思います。話合いで甘口と中辛を作ることになりました。2つの味をどちらも食べたいと希望される方も多く、見事に2つの鍋を空っぽにすることができました！とても美味しいカレーライスを作れました。

毎年行っていることではありますが、私達作業療法士もユーザー支援事業では素敵な経験をさせて頂いています。特に今回は、何度も参加して頂いている方の笑顔が最高でした。今後とも支援をさせて頂ければと思います。

よろしくおねがいいたします。

！最後に皆でゲーム！楽しい！



具がたくさん！！

土浦医療圏コミュニティディレクター
シルバーケア土浦 飯塚

お米を研ぐのも大変！



ランチ会に参加して

今回の調理会は支援者の方たちにすべてお任せして、家族は部屋の片隅で要望書の発送作業や、久しぶりに会った方たちと楽しくおしゃべりをさせていただきました。買い物から調理、配膳とすべてが流れるような作業でした。車椅子使用の当事者には調理台が高いので低い台を用意するなど、一人ひとりに対応したきめの細かい支援です。娘さんと初めて参加したお父様は、親から離れて初めてお会いした支援者の方と、ずっと一緒に楽しそうに作業していることにとても驚いたそうです。「バス旅行も参加してみようかなあ。」と話していたとのことでした。（お母様の後日談）

作業療法士として普段お仕事で頑張っているお姿を、とても感じる事が出来ました。家族・当事者、そして支援者の皆さんの笑顔がとても印象的で、楽しい一日を提供して下さった作業療法士会 土浦医療圏の皆様、本当にありがとうございました。次回のバス旅行も楽しみにしております！

（ご家族から、当事者の方たちの感想や様子を伝えていただきました。）

Aさん：玉ねぎや人参など、野菜が上手に切れたと励ましてくれたのがうれしかった。

支援者が一対一で付いて頂いたので、リラックスできた。

Bさん：久しぶりの調理でしたが、皆でやるのがとても楽しかった。

Cさん：楽しく話ができ調理、買い物も楽しかった。

本当は私もレタスが切りたかった！

Dさん：男同士でカレーを作っている時、話が面白かった。

御所脇さんが、家で作ってきて下さったせんべいを皆で美味しいと言いながら食べたのが楽しかったです。



平成30年度 第2回県北集会 平成30年6月24日(日)

場所：水戸市福祉ボランティア会館 大研修室

内容：軽体操とレクリエーション

ラジオ体操&子供の頃のあそび♪

本気で走り、跳び、大汗をかき、大笑いをしました。



本気走り！

ハンカチ落とし



ジャンケン列車
ぼく、先頭！

滝沢会長と笑顔
で、パチリ！！

このほかに、「イス取りゲーム」
「フルーツバスケット」、
「はないちもんめ」をしました。
楽しくて、お腹を抱えて大笑いでしたね。
そして、滝沢会長の訪問もありましたね。

(担当：飯田・小坏)



支援者紹介

平成16年「脳損傷友の会いばらき」が発足した頃から参加しています。

先日、8月の県北集会に見学初参加の方から、以下のような感想をいただきました。

「支援者さん、当事者さん、学生さんのみなさんがそれぞれ役割をもち、

会を楽しんでいる姿は本当にボランティアの力、心の関わり力の強さを感じます」

私も含めみんな年齢を重ね、実情や環境が変わり、大変になることもありますが、

こんな感想をいただけるのは、参加者が当初から大切にしている想いは変わっていないからですね。

実情に合わせて集会の形は変わっても、想いは変わらず、未永く参加し続けていきたいです。

(山ねこ工作室 山本淳子)

平成30年度 第3回県北集会 平成30年8月19日(日)

場 所 : 水戸市福祉ボランティア会館 大研修室

内 容 : 「写真立てのデコレーション」と「ラベンダーの小物づくり」

参加者 : 27名(当事者3名、家族6名、支援者8名、学生4名、見学者3名、子ども3名)

☆ラベンダーの香りと楽しいおしゃべりで 夏の疲れを癒してリラックス☆

- ちょうど暑さが和らいだ、そよ風の心地よい日の集会でした。沢山の皆さまにご参加いただき、終始和やかな雰囲気の中、活動を行う事が出来ました。まずは写真立てのデコレーションです。ガラススタイルを張り付けてオリジナルの写真立てが出来上がりました。ご家族でお一つ作って頂く事が出来たので、色々のご相談しながら進められ、それぞれ素敵な仕上がりになりましたね。



グループそれぞれで 会話も弾みます！

大きさや色の違うタイルを張り付けて、カラフルな写真立てに！



ステキな夏の思い出の品が出来上がりました。



色や配置を相談しながら慎重に・・・★

- ラベンダーの小物は、ラベンダーを手でほぐし、お茶パックと布の中に詰めました。部屋中いっぱい、癒しの香りが広がり、リラックスした空間の中の活動となりました。皆さま、夏の疲れを癒す事の出来る時間になったでしょうか。

また次回、お会いしましょう。

(担当：弓家・飯田)



頑張ってる人⑤

◎ダンスが大好き！

つくば市松代 笹原 七実さん

七実さんは、現在18歳。今年の3月に「つくば特別支援学校」を卒業しました。取材でお会いした日は優しいお母様と一緒にでした。七実さんはずっとニコニコした穏やかなお嬢さんで、笑顔がとてもすてきでした。（お家では、とても元気だそうです。）



☆普段はどんな生活をしていますか？

つくば市にある『シャンティつくば』という福祉型専攻科（自立訓練や生活訓練のための過程）に週4日通っています。専攻科は2年間の過程で、七実さんは1年生です。調理やダンス、ヨガ、買い物など、自立のための様々なプログラムが計画的に行われています。七実さんは、12名の仲間（1年生7名・2年生5名）と楽しく毎日を過ごしています。

☆七実さんの好きなことは何ですか？

10歳のころから続けている「ダンス」です。“DAS”というダンススクールで、ヒップホップダンスを習っています。七実さんは『バリアフリーチャレンジクラス』に入っています。担当の先生のやり方が（踊り方を押し付けることなく、自由に踊らせてくれる）ので、こんなに長く続けられています。

練習には休むことなく参加していますが、踊らずに隅の方で見ているだけのときもあるそうです。それでも本番には楽しそうに踊っているので、皆さんから『七実マジック』と、呼ばれているそうです。



☆最近のことで、印象に残っているのは？

8月17日に行われた「祭りフェス」に参加したことです。支援学校の同級生のお母様発案の手作りのお祭りでしたが市長さんはじめたくさんの方にも参加していただき、とても盛大に出来ました。七実さんは、「ファッションショー」に出演しました。桂由美さんデザインのピンクのウエディングドレスを着てお友達と一緒にランウェイを歩きました。「障害のある人もない人も一緒になって歌い踊る・・・」そんな楽しいお祭りです。七実さん親子も大忙しでした。お祭りの様子はテレビのニュースや新聞でも取り上げていただきました。

◎ 七実さんは、5歳の時に急性脳症を発症し、3週間意識不明の状態が続きました。ご両親は大変な思いをされながら、七実さんを育ててこられました。（その様子は会報34号の「家族の広場」に掲載）七実さんが、取材の間中ずっとにこやかに話してくれたのは、そんなご両親の愛情をいっぱいを受けているからだだと、感じました。

自立訓練（機能訓練）サービス事業所訪問 ②

かさま障がい者サポートセンター

住所 笠間市八雲 2-12-14

☎ 0296-77-7211

2017年11月 開所

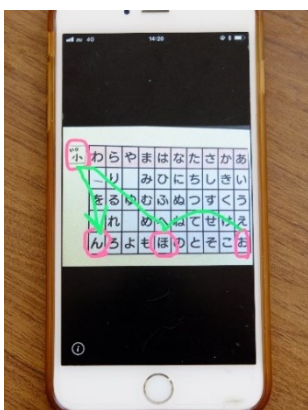
（立川記念病院内）

◎自立訓練（機能訓練）

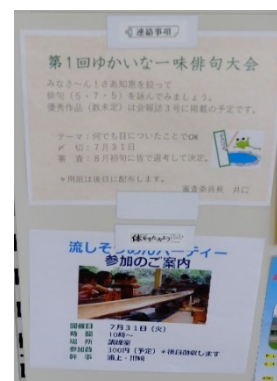
※送迎サービス対応



現在の利用者は18名。社会復帰のための訓練に励んでいます。個別的な理学療法、作業療法、言語聴覚療法だけではなく、集団訓練や所外訓練等も取り入れています。又、立川病院が母体なのでPT・OT・ST・看護師と、スタッフも充実しています。



- 主なプログラムとして
- ドライブシュミレーター
（自動車運転の再獲得を）
- 免荷式歩行器
（重度障害の方の歩行訓練に）
- パソコン
（復学や復職の為の操作習得）



室長の国谷さん、言語聴覚士の加藤木さんからお話を伺いました。当サポートセンターは、30名（1日当たり20名）まで、受け入れが可能です。また、楽しみながら訓練に取り組めるよう、失語症の方の意思疎通のツールとしてスマホを利用したり、俳句や園芸、工芸などのクラブ活動を取り入れたりしています。

自立訓練（機能訓練）サービス事業所訪問 ③

機能訓練センター フリュージェル

住所 常陸大宮市上町 357-4

☎ 0295-58-6311

2017年3月 開所

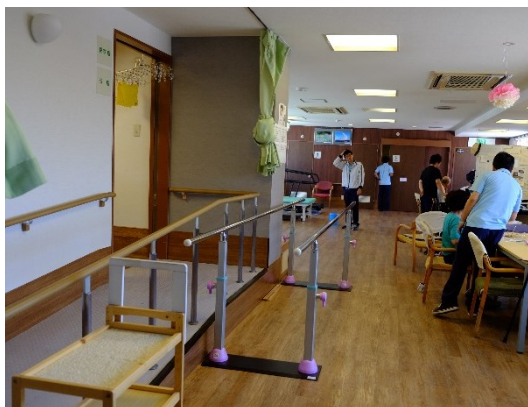
◎自立訓練（機能訓練）

※送迎サービス対応



現在の利用者は13名(定員20名)うち2名が高次脳機能障害の方です。(どちらも30代)

志村大宮病院が母体なので、PTやOTなどのスタッフには恵まれています。STも常駐ではありませんが、必要に応じて病院から派遣されます。



生活能力向上の為のプログラム

- ・トイレや入浴訓練
- ・ドライブシュミレーター
- ・昼食作り（ご飯を炊く）

身体機能向上の為のプログラム

- ・体重免加荷型トレッドミル
- ・バイク

認知機能向上の為のプログラム

趣味。余暇活動



リハ科科長の寺門さんからお話を伺いました。「当施設では、通所される方の社会参加・就労実現のためのプログラム（社会生活向上）を提供しています。今後は、サービス提供後の目標とそれを見据えたプログラムの検討が課題です。また、他機関との連携も必要になると思います。」

お知らせ

◇日本脳外傷友の会の全国大会が三重県で行われます。

◇テーマ：未来につなげ支援の輪

～ 高次脳機能障害の支援の充実を目指して ～

《交流会》日時：平成30年10月19日（金）

場所：四日市ホテル

《大会》日時：平成30年10月20日（土）

場所：四日市市民会館

◇小原先生(支援センター長)に関する記事を茨城新聞で見つけました。

※茨城カウンセリングセンターの講師紹介の記事です。

「小原昌之先生。「茨城県高次脳機能障害支援センター」のセンター長です。

県内の心理・カウンセリング関係の中心を歩み、「心の医療センター」などで活躍してきました。しかし、彼の特徴は、狭い意味の専門家ではないということなのです。中国大陸や沖縄地方などのフィールドワークを通して、人が癒されることを深く探求し続けています。人間が持つ潜在的な治癒力に深く目が注がれているカウンセリング観は、分かりやすく感動的です。」

◇「缶バッジ」のセレモニーが行われます

高次脳機能障害に関する啓発活動の一つとして、缶バッジが作られることになりました。詳しくは次号（41号）で報告しますが、その缶バッジのデザインを考えたのが、会員浅野こず恵さんです。セレモニーは、9月29日、県立医療大学で行われます。

編集後記

今年の夏は、地球が悲鳴をあげているのではないかと思えるような暑さでした。将来を考えると不安材料ばかりですが、私たちは日々生きていかななくてはなりません。

リハ講習会の講演を聞いて、心に残った言葉がありましたので、ご紹介します。小林晴彦さんが常に心に留めておく言葉で、「ニーバーの平穩の祈り」というものだそうです。『神様、私にお与えください。「変えられないもの」を受け入れる落ち着きを、「変えられるもの」を変えていく勇気を、そしてその「2つのもの」を見分ける賢さを。』

後日、調べて見ましたら、アメリカの神学者ニーバーが小さな教会で行った説教の一部で、かなり有名な祈りの言葉だそうです。アルコール依存症の方々の克服プログラムにも使われているようです。知っている方もおられたかもしれませんね。

